

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102483		
法人名	岐協福祉会 大洞岐協苑		
事業所名	グループホーム 大洞岐協苑		
所在地	岐阜県岐阜市大洞3丁目3番地1号		
自己評価作成日	平成22年7月19日	評価結果市町村受理日	平成22年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102483&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年8月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山に囲まれた自然豊かな立地の中、更に地域の方々との交流も始まった。利用者それぞれが得意な事(書道・編み物・お菓子作り等)を意欲的に取り組まれ、外出に力を入れた行事の中活き活きと生活されている。スタッフも”笑顔””言葉遣い””雰囲気作り”に心掛け、ケアプランを中心とした温かいケアを目標としている。併設の特養とは行事等での交流も多く、ホームでの生活が困難になった場合も臨機応変な対応が可能となっている。敷地内の畑やホームのベランダでは季節の野菜や草花を育てており、金魚を飼い、ベランダにはツバメやスズメが巣を作り、時々犬も遊びに来る、歌と笑顔の絶えない賑やかなホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな郊外にある複合施設の一角にホームはある。施設周辺は、地域住民の散歩道でもあり、利用者は天候に応じ、午前・午後の森林浴を楽しんでいる。ホームの共有スペースにある大きな窓は、木立の色の変化で季節を感じさせるキャンパスとなっている。現在、利用者は全員女性で、職員と共においしい食事作り、ベランダでの家庭菜園、金魚の飼育など、女性らしい日課をこなし、穏やかに生活している。施設では、地域交流の場として「地域ふれあいサロン」を定期的で開催し、地域住民や施設利用者同士のふれあいの機会をもっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人間の尊厳を基本に、地域の方々力を借りながら共に豊かで楽しく、生きがいの持てる暮らしが実現する様に、管理者とスタッフは相談・協力している。	理念は、「利用者の主体性を生かす円滑な共同生活を工夫する」としている。人間の尊重を基本に、管理者・職員は、相談・協力している。地域の人々の力を借りながら、豊かに楽しく、生き甲斐の持てる暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年地域の夏祭りや近くの幼稚園の運動会・卒園式に参加している。また、地域の『ふれあいサロン』にも月に1回参加している。	日常の散歩では、近隣の人々と挨拶を交わしている。ホームが複合施設の2階にあるため、気軽に立ち寄り人はない。恒例の納涼祭には、地域住民多数の参加があり、共に楽しんでいる。定期的実施される社協のふれあいサロンに参加し、地域との交流に努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『ふれあいサロン』で地域の方々とお話をしたり、一緒に体操をして交流を深めている。その際グループホームや特養について質問があり、お答えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員である市の介護保険課や包括支援の職員、地域の民生委員や老人クラブ会長、家族代表の方々から意見を伺い参考にしてている。	運営推進会議は、去年は2回の実施であったが、今年は、2ヶ月に1回の実施を目指して計画している。前回は利用者も出席し、ホームでの生活の様子等を報告するに留まっている。	運営推進会議の開催回数が少なく、ホームの現状報告に留まっている。今後は、出席者から、意見や情報が得られる会議となるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の職員が出席しており、毎回意見を伺っている。	母体に、地域包括支援センターがあり、市介護保険課と日常的に連携している。他事業所の様子、制度上の最新情報を得るなど、緊密な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入り口にセンサーを設置し、日中は鍵を掛けない。苑内研修では、身体拘束についての勉強会もあり、比較的高い意識で取り組んでいる。利用者の心身に危険がある時等必要な場合は、家族の同意を得て行う事としている。	身体拘束に関して職員は十分理解し、拘束は行われていない。玄関の施錠は無く、センサーで感知できる仕組みになっている。家族の承諾を得た上で、ベランダ出入口のみ施錠しているが、その他は自由に動ける環境である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修を受けたスタッフもおり、苑内研修等で全体の周知に努めている。		

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『きずなの会』のセミナーに参加し理解を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前年度の居住費の値上げについて、その後不満の声は聞かれなかった。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入浴はスタッフと利用者が1対1になり、リラックス効果もあり様々な話を下さる。ホーム入り口には、意見箱の設置や面会者カードには意見や要望を書く欄がある。	ホーム玄関の意見箱や、家族会で、意見や要望を引き出している。散歩途中にある、幼稚園と交流したいとの意見があり、実現している。利用者・家族の意見や要望には、出来る事から実行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議では、スタッフが各意見を出し話し合う。責任者はその意見をまとめ、事業責任者会議で施設長や管理者へ報告する機会がある。	月1回の職員会議で、職員の意見を聞いている。職員の得意分野を活かした、園芸・おやつづくり等、サークル活動の提案がある。出された要望や提案は、代表者や管理者会議で検討され、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム内のサークル活動は、スタッフが各得意分野でリーダーとなり進めている(園芸・手作りおやつ等)。また、資格手当てや業務改善提案制度が設けられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の苑内研修があり、参加後は報告書の提出も行っている。また認知症介護実務研修等の外部研修も順次受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会第一支部に属し、支部会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式のバックグラウンドアセスメント様式をベースに、面接時には家族と離れた場所で話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15と同様に、家族のみと話す時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム以外のケアマネジャーと連携し、相談の内容に応じた対応に努めている。以前要望があり、他事業所の有償移送サービスや付き添いヘルパーサービスを提供した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・スタッフ、各年代で知識や教養に違いがあり、会話や日常生活の中で助け合い、支えあう機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告書の送付や家族の面会時には必ず声を掛け、情報の共有やコミュニケーションを深めている。また受診は家族に依頼し、健康状態を双方で把握している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1回行きつけの喫茶店で友人とお話したり、家や思い出の場所へドライブに行っている。また友人の面会もある。	毎日、近くの行きつけの喫茶店に行ったり、友人の面会もある。1人暮らしの知人宅や昔の勤務先にでかけることも支援している。思い出の店への買い物に職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上『合う・合わない』利用者を把握し、配慮している。また、認知症の軽度の方が重度の方のお手伝いをして下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に移られた時は詳細な情報を伝えている。入院の場合恐らく状態の変化があり、求められる事が余りない。常に退居後の情報提供は可能にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議では、他のスタッフの意見を事前にまとめ、事業責任者・ケアマネジャー・受け持ち担当者が話し合う。ケアプランの他、日常生活の援助に反映させている。	散歩中や入浴時などでの、なにげない日常会話の中から、利用者個々の、思いや意向を把握している。言葉での把握が困難な人には、行動や表情、また、家族からの情報を得て、把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のバックグラウンドアセスメント様式を利用し、徐々に回想法や利用者・家族との会話の中で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気づきや特記を日誌や申し送りノート、ADL記録ノート(食事量・排泄・バイタル等の個別介護記録ノート)に毎日記載し、スタッフ全員が把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の手順を踏みながら、状態の変化等に応じてその都度変更している。	利用者の具体的な問題点を示し、全職員で話し合い、介護計画を立てている。その際、家族や医師など、必要な関係者の意見・要望を聞いている。定期的、随時のモニタリングを実施し、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ADL記録ノートを作成し、日々の健康状態や心身の変化を記載。スタッフ共有の情報としている。また個別に、『ケアプラン実施記録表』があり実践と結果は毎日把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出(買い物等)や散歩は希望や必要性を判断して臨機応変に対応している。		

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の『ふれあいサロン』に月1回参加。また地域のボランティアによるお菓子教室や絵手紙教室等がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に継続してかかりつけ医(家族の送迎)の受診となっている。その都度必要な情報は、提供しあっている。	ホーム入居以前からのかかりつけ医へ、家族の送迎で受診している。事業所からは、緊急時や検査入院などで、かかりつけ医や関係医療機関に、直接連絡を取る支援体制を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火・金曜日、看護師による血圧測定と健康相談が行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の看護計画に任せてしまっている。病院側から依頼があり、主治医・ケースワーカー・当スタッフで話し合いの場を設けた事はある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでは、終末ケアに関して行っておらず今後も行う方向にない。併設の特養には指針があり、異動入居の際はそちらに沿ってケアを行う事となる。	ホームでの重度化・終末期の取り組みは無いが、入居時に、本人・家族に説明の上、併設の特別養護老人ホームへの申込みを同時に行ってもらっている。契約時に、家族が了承し、周知している。	住み慣れた場所で、できるだけ長く住み続けたいという利用者・家族の思いがある。特別養護老人ホームに移動する時期等を明確に示すマニュアル等指針づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修として、地元の消防署で救命救急やAED使用方法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立ち入り検査と、避難訓練がある。その際、併設の事業所から応援がある。災害非難準備品は、併設の特養で備えている。	同一敷地内にある複合施設間で、災害時の役割分担や活動手順を設け、年2回、消防署の立会いのもと避難訓練が実施されている。スプリンクラーも設置済みで、備蓄も整えている。	施設周辺には民家も無く、地域住民との関わりは難しい。防災対策においても、法人組織の力だけでは対応に限界があると思われるため、地域との協力体制づくりを検討されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	殆どの方が、会話による意思疎通が可能という事もあり、日々言葉遣いや話の内容には気を付けている。	職員は、利用者の尊厳や誇りを損ねないように、言葉遣いを丁寧に優しく対応している。特に、トイレや入浴介助の場面で、プライバシーに気をつけている。得意な自慢の料理や味付けなどの成果を称え、自尊心を満たすようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物は、欲しい物を自分で選び、支払いをしてもらえるよう援助を行っている。また、献立を考える時は会話に注意しながら、引き出す様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴に関しては、一定の時間の中でしか融通を利かせられていない。感情に起伏があり、マイペースで過ごしたい方にはその方のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容の時、可能の方は自ら口紅や眉を描いて頂いている。また希望の方には、ネイルも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食作りや毎食の片付けは、全て利用者で行っている。また、月に2回以上はおやつも作っている。	座席の配置やテーブルセッティングにも、職員の配慮があり、楽しく会話しながら、ゆっくり食事をしている。食後は、下膳や後片付けなどを、利用者と職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取量の記録、月1回の体重測定、特養の管理栄養士によるBMI表の作成や献立助言、バックグラウンドアセスメントによる『好き嫌い』の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後は義歯を磨く介助、就寝前は義歯を預かり、洗浄剤による消毒を行っている。自分の歯の方は、歯磨きの声掛けを行っている。		

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在1名の方がトイレ誘導及び排泄パターンチェックを行っている。7月に退居された方は、トイレ誘導を行う中で尿パットのサイズが小さくなり、紙パンツから失禁パンツになられた。	オムツ使用の人は2名あり、夜間ポータブルトイレ使用の人もある。排泄面では、自立の人が多い。トイレ誘導で、紙パンツから失禁パンツに変わった成果もある。汚れた下着を自身で洗濯される人もあり、職員は見守り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居前は便秘症で下剤も服用されていた方が、牛乳の飲用管理をした結果スムーズな排便が見られる様になった。全体として、毎朝のビデオ体操を行い、食物繊維食品や乳製品を多く提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに応じた間隔での入浴が基本であるが、希望されれば体調に考慮しながら入って頂いたり、休んで頂いたりしている。	通常は、昼間の時間帯に入浴が行われている。利用者の希望に沿って毎日、隔日、2日おき等、個々に対応している。入浴を拒否する人もあり、無理強いせず対応している。仲良しが、2人で楽しく入浴するなど、柔軟に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情を見て声掛けし、周囲に気を遣わず休んで頂ける様配慮している。また、夜間眠れない時は夜勤者が会話や飲み物を提供し入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬説明書を1冊のファイルにしている。毎日の服薬確認はADL記録ノートに記載しチェックしている。軽い体調の変化に、かかりつけ医に相談もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の自立度も高く、生活の中での役割もほぼ決まっている。一人ひとりの『得意不得意』を把握し、余暇活動やサークルでの参加にも配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のランチ、家や思い出の場所を訪ねる『ふるさと訪問』、地域の『ふれあいサロン』への参加等。他にも買い物やモーニングにも希望に沿い支援している。	ホーム周辺には、森林浴の出来る地域の散歩コースがある。利用者は、午前・午後とに分かれて、日常的に散歩している。喫茶店のモーニングや買物等の機会、地域行事へも、家族と協力しながら積極的に出かけている。	

岐阜県 グループホーム大洞岐協苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には財布を持って出掛けてもらう(その都度、金額の確認)。心細い方は家族の了承の下、手持ちに小額の金銭がある。また家族には面会の際、お小遣い帳を確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1回程度家族へ電話をされる方がおり、公衆電話まで付き添い、介助をしている。他の方も、希望に応じて電話や手紙・はがきの援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂やベランダには常に花や緑が絶えない様になっている。また菖蒲湯・七夕・柚子湯・雛飾り等の行事や風習を行い、季節を感じて頂いている。	ホームは2階にあり、日当たりや風通しは良い。大きなガラス窓から見える木立の移り変わりから、季節を感じ取る事ができ、落ち着きを与えてくれている。広々とした共用スペースには、利用者全員で、昼寝が出来るような畳コーナーがあり、のびのびと過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1ユニットで、どの居室も居間の賑やかな声がある。2~3人では畳コーナーやTV前等、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具はもちろん、思い出の写真や家族の位牌を置かれている方もいる。壁のカレンダーに予定を細かく書き込まれていたり、日記を付けられていたりしている方もいる。	居室はシンプルであるが、利用者思い思いの物が持ち込まれ、個性のある居室になっている。ベランダのプランターで朝顔を育て、開花を楽しみに毎日水やりをしている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行レベルに応じて、杖・シルバーカー・歩行車・手引き介助で全員自力で歩かれている。		